



地域研究集会

第 10 回東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会
東北太平洋岸における気候変動の水産資源への影響と解析手法

日時：2023 年 11 月 22 日（水）09:30～16:30

会場：現地会場とオンライン（Microsoft Teams）のハイブリッド*

現地メイン会場：石巻魚市場 2F 見学者研修所（宮城県石巻市魚町 2 丁目 14 番地）

現地サテライト会場：岩手県水産技術センター2F 大会議室（岩手県釜石市大字平田第 3 地割 75 番地 3）

共催：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所，宮城県水産技術総合センター，岩手県水産技術センター

後援：石巻魚市場（株），石巻市

コンピーナー：木所英昭・笥 茂穂（水産機構資源研）・増田義男（宮城水技セ）・森 友彦（岩手水技セ）

参加登録 URL：

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=tzClNwEI0mgLrTqozK6SpK8_3enyXhOIHm7OCwyVU5UMkNCOVJOMzJBMIFSTjRDTVIRNDIPUlpMNY4u



問合せ先：shimizu_yugo30@fra.go.jp

プログラム

挨拶：木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長）

09:30～09:40

趣旨説明：木所英昭（水産機構資源研）

09:40～09:50

1. 気候変動の影響解析に利用可能なデータセットと解析手法

- | | |
|------------------------------------------------|------------------|
| | 座長：木所英昭（水産機構資源研） |
| (1) 気候変動予測データセット | 瀬藤 聡（水産機構資源研） |
| | 09:50～10:10 |
| (2) 調査船調査における底層水温 | 笥 茂穂（水産機構資源研） |
| | 10:10～10:35 |
| (3) 水塊変動解析ツール | 田中雄大（水産機構資源研） |
| | 10:35～11:05 |
| (4) 底層水温と分布適水温を用いた将来予測 | 鈴木勇人（水産機構資源研） |
| | 11:05～11:30 |
| (5) 気候変動下における分布域のシフトが生物相の空間変異を通して生態系の変動性に与える影響 | 金森由妃（水産機構資源研） |

11:30～12:00

(昼休み)

12:00～13:00

2. 気候変動による影響の現状と地域的差異

座長：増田義男（宮城水技セ）

(1) 2010年代以降の日本周辺における気候・海洋変動の特徴

黒田 寛（水産機構資源研）

13:00～13:30

(2) 三陸海域における魚種組成の変化

森 友彦（岩手水技セ）

13:30～14:00

(3) 仙台湾・金華山海域における魚種組成の変化

増田義男（宮城水技セ）

14:00～14:30

(4) 常磐南部・鹿島灘海域における魚種組成の変化

小熊進之介・浦本高志（茨城水試）

14:30～15:00

(5) 房総海域における魚種組成の変化

辻 康平（千葉水研セ）

15:00～15:30

(休憩)

15:30～15:40

3. 気候変動への適応と総合討論

座長：笥 茂穂（水産機構資源研）

(1) 気候変動の影響と適応策

木所英昭（水産機構資源研）

15:40～16:00

(2) 総合討論

進行：木所英昭（水産機構資源研）

16:00～16:30

開催趣旨: 気候変動によって日本周辺の水温が上昇している。その影響として、東北太平洋岸でも東シナ海に産卵場を持つ暖水性種であるブリやサワラが増加し、漁業資源としての重要度が増加した。さらに、2015年以降には仙台湾を中心にチダイ、タチウオ等の暖水性の沿岸種の漁獲が急増し、新たな地域特産品としての利用が検討されている。その一方で、近海漁場の水温上昇によってサンマ漁場が沖合化し、サンマの資源が減少して漁獲量減少に拍車がかかっている。このような気候変動による漁獲物組成の変化をはじめとする水産資源への影響は今後も続くことが予想され、その対応策の検討が要望されている。そこで本地域研究集会では、気候変動による海洋環境の変化がどのように水産資源に影響を与えているかを明らかにする際に必要となるデータセット

や解析手法に関して解析事例を含めて紹介する。さらに東北太平洋岸における漁獲物組成(特に底魚類や沿岸性魚種)の変化を地域ごとに比較検討し、地域的な差異を明らかにすると共に、各地において漁獲量が増加した魚種の有効利用状況の実態を把握する。そして、すでに生じている気候変動の影響や今後予想される影響への適応方法や研究の進め方について検討する。

備考:2022年度より「三陸海域の水産業と海洋研究集会」を「東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会」として、研究集会の目的を引き継ぎつつ、より広域に話題を扱うものとする。